

2019年7月

第106号

# ぱれっと



(株)北日本ベストサポート  
Tel. 018-883-1888

## 「老後 2000 万円問題」の大問題

老後 2000 万円問題が与野党から批判を浴び大混乱に陥っている。これは、金融庁金融審議会が取りまとめた有識者会議の「高齢社会における資産形成・管理」という報告書の中に「平均的な老人夫婦世帯で公的年金以外に約 2000 万円の金融資産の取り崩しが必要となる」と記載されていることを問題視したものだ。

麻生金融相はこの報告書の受け取りを拒否、野党の追及に対して「(老後に)赤字になる、生活ができなくなると不安を煽ったことが一番の問題」と答弁した。野党は「65 歳から 30 年間生きると 2000 万円蓄えがないと生活が行き詰まるのか」。04 年の年金改正の際キャッチフレーズ「100 年の安心」について「年金 100 年安心は嘘だったのか」と厳しく追求した。

07 年の参議院選挙で「消えた年金」問題を争点として戦われた経緯があり、野党はその再来を狙って「消えた報告書」問題を争点としようとの思惑が働き、与党はその防戦に躍起となっている構図が読み取れる。

しかし、報告書の本旨は、長寿化を見据え、早めに資産形成に取り組む重要性を訴えることにある。本報告書で問題とされた「30 年で 2000 万円不足する」との記述はあくまで「高齢夫婦の無職世帯の場合、1 カ月の平均収入は年金中心で約 21 万円、支出は毎月約 26 万円で毎月 5 万円が赤字となり 30 年長生きした際、単純計算で約 2000 万円の補填が必要となる」というもの。

ここでは「持ち家」か「借家」か、何歳まで就労するか、健康状態はどうか、など収入要件、支出要件、家族の状況等を全く考慮しないサンプルを提示したものに過ぎない。それぞれ個々の事情によって収支に変化が生ずるのは当然のことであり、個々の老後資金の必要額は千差万別にはじき出されるものと思う。

このようなサンプルの提示が国民の不安を煽ったとか、年金の信頼性を毀損させた等の批判は的外れとしか思われぬ。多数の国民が公的年金だけで老後を豊かに暮らせるなどとは思っていない。むしろ長寿化による生活設計をどう考えたらいいかが大きな関心事である。

公的年金は現役世代の拠出する賦課方式となっており、年金受給者が増加する一方、年金原資を拠出する現役世代が減少し制度そのものの維持に大きな不安を抱えている。

「2000 万円問題」をこれほど問題視するのであれば、現役世代に不安を与えない持続可能な年金制度の構築をすることであり、高齢者の就労機会の付与であったり、健康で生きがいのある老後を送るための支援策が求められている。

選挙目当ての国民不在の捻りない与野党のやりとりこそが大問題である。

この報告書、ダウンロードして一読して欲しい。老後の参考書としてお薦めしたい。



## 生きるとは燃えることなり

### 良寛の偉さ

良寛の偉さは、どういうことがあってもいたずらに外に求めないで、あくまでも自分自身に求め、自己の調節を行うが、しかも自分を殺さずに心の安らぎは持ち得たということであります。

そういう意味では良寛という人は、全くすばらしい人だと思いますが、こういう心の姿を見につけることはどうも、ただ教育とかそういう外からの力だけではなく、何よりも自らの命をかけての精進と、それに恐らく遺伝的なものなどが大きな力を持つことでありましょう。

### 良寛に学ぶ

心の安らぎを得るには、良寛のようにたえず自分自身を内側から見るという努力が絶対に必要だと思います。

良寛の生活を見ますと、相手に対して愚痴をこぼすとか、不平を言うとか、悪口を言うとか、そういうことは殆どないのでありますが、これは徹底的に自分を深く見て、本当に生きるということが決して自分だけの力ではなく、生きるということこそは、文字通り万物のおかげであるということをも腹の底から悟り、何としてもあらゆるものを拝まずにはおれない、というような心境から来ておることのように思われます。

### ゆっくり急げ

やればできるのである。しかし、急ぎすぎではならぬ。

「ゆっくり急げ」という言葉である。

やってみても、なかなか自分の思うようにはいかないことが多いが、くさらずに続けることである。

希望をもって続けることである。



## 石川 達三 (作家・芥川賞第1号受賞者)

- 1905年7月2日(明治38年) 横手中学英語教員の父。秋田県横手市で生まれる。父の転勤、転職などで秋田市・東京大井町・岡山県高梁町・岡山市などで育つ。
- 1927年 早稲田大学文学部英文科に進学。
- 同年 大学1年で中退。大阪朝日新聞の懸賞小説に当選。
- 1930年 ブラジル移民の監督としてブラジルに渡る。帰国。
- 1935年 ブラジル農場での体験の小説「蒼氓」で第1回芥川賞受賞。
- 1938年 「生きている兵隊」で発禁処分。
- 1942年 海軍報道班員として東南アジアを取材。
- 1946年 衆議院議員選挙に立候補、落選。  
その後、「人間の壁」「金環蝕」など社会派作家として活動。
- 1969年 菊池寛賞を受賞。
- 1975年 日本ペンクラブ会長。日本芸術院会員。日本文芸家協会理事長など歴任。趣味のゴルフはシングル・プレイヤー。
- 1985年1月31日 胃潰瘍から肺炎を併発し死去。享年79歳。

## オススメの *BOOK*



### 『夢も見ずに眠った』

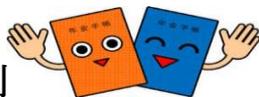
作者 糸山 秋子 出版社 河出書房新社

作者は06年「沖で待つ」で芥川賞受賞。著書に「薄情」(谷崎潤一郎賞)「逃亡くそたわけ」などがある。

本書は管理職として働く妻・沙和子と非正規で働く夫・高之の物語。埼玉県熊谷に住む夫婦のもとに、妻が札幌転勤を発令される。別居生活となってしばらくして高之はうつ病と診断されて病院通いとなる。二人は次第にすれ違いが多くなり円満離婚に発展する。

それぞれが違う道を歩むことになるがお互いが相手を思いやる火種は残っている。うつ病から脱出した高之は自らの活動の中で沙和子が交通事故で入院している事を知り、横浜の病院に見舞いに行く……………。

## 年金の 3つの役割



日本に住む20歳以上60歳未満の全ての人は、国民年金に加入することになっています。その中には3つの種別があり、学生や自営業者、無職の人たちなどは第1号被保険者、会社員や公務員など職場から加入している人は第2号被保険者、第2号被保険者に扶養されている年収130万未満の配偶者は第3号被保険者になります。

また、年金制度は3階建てと言われるように、全員が加入する国民年金（基礎年金）は1階部分、加えて第2号被保険者が加入する厚生年金は2階部分、上乘せとなる企業年金などは3階部分という構造です。

いつの間に加わったのだらうと思う人は、20歳を迎えた時に親が代理で第1号被保険者になる手続きをしてくれていたのかもしれませんが、その前に就職した人は勤務先を通じて第2号被保険者になっているはずですが。

ところが、厚生労働省の調査によると、20代前半で保険料を納付している人は24%で、未納の理由は「保険料が高く、経済的に支払うのが困難」「年金制度の将来が不安で信用できない」という回答が多くなっています。確かに年金制度が崩壊するのではないかとこの噂も耳にすると不安になります。

でも、将来年金がもらえないなら納めなくてもいいと考えるのは早計です。年金への加入は国民の義務ですし、国の公的保障ならではのメリットがあるからです。

年金といえば、65歳から受給できる**老齢年金**のみを思い浮かべる人が多いことと思います。

しかし、**病気やケガで障害を負った時に受給できる障害年金**や、**一家の働き手が亡くなった時に残された家族がもらえる遺族年金**も、国民年金に加入中であれば20代でも受け取れます。このように国民年金には想定外のリスクにも対応した3つの役割があることを覚えておきましょう。

ただし、保険料を未納のまま放置していると、障害や死亡といった万が一の事態でも年金が受け取れない場合があるので注意が必要です。必ず保険料を納めるか、経済的に納付が難しい場合は、市町村や年金事務所に相談して、速やかに免除・学生納付特例・納付猶予の制度を申請しましょう。承認を受けた期間は老齢年金に反映されない部分はありますが、未納と違って年金受給のための加入期間とみなされます。なお、その期間の保険料は10年以内であれば追納して受給額を増やすことも可能です。

炎上する「老後2000万円問題」も含め、「年金ネット」の活用など若いうちから年金制度に関心を持つようにしましょう。



香港公園のハス

### 【編集後記】

6月16日香港で200万人を超える大規模デモが行われた。  
(主催者発表)(香港人口700万人)

これは、香港の刑事犯容疑者を中国本土に引き渡すことを可能とする「逃亡犯条例改正案」の撤回を求めてのものだった。

「自由」と「民主主義」を守るためでの戦いでもあった。監視社会と言われる中国、我が国の自由と民主主義の有り難さをかみ締めたい。